

Fukuoka City Public Library Movie Hall
福岡市総合図書館映像ホール

シネラ

1

Ciné-là NEWS
シネラ・ニュース
January.2000 No.42

特集

原節子

映画特集



美人の条件は、笑顔が魅力的であることだ。
最近笑わない女優が多いと思う。2000年は
ぜひ、原節子のように笑顔でスタート。

「原節子」／イラスト&文 山下良平

[特別企画]

アモス・ギタイ

～映像のエクシール～

特別企画

アモス・ギタイ 映像のエクシール

現代イスラエル映画を代表する映画監督、アモス・ギタイ。イスラエルとイスラエルを取りまく状況を繊細な映像で表現するギタイ監督の代表作を特集。

協力：イスラエル大使館、アテネフランセ文化センター

会 期：19日(水)～28日(金) ※休館日・休映日を除く

観覧料：800円(大人) 600円(大学生・高校生)
400円(中学生・小学生)

※定員制、各回入替制。

※チケットはすべて当日券です。前売り券はありません。

※福岡市在住の障害者の方、及び福岡市在住の65才以上の方は400円。(手帳の提示が必要です。)

イスラエル第2世代にあたるギタイの作品には、ユダヤ人の受難を内に秘めつつも、それを特権的意識とせず、そこから現代イスラエルが抱える問題を照射しようという試みがある。自ら亡命生活を送ることで、亡命や民族離散がユダヤ人だけのものではなく、世界に共通の問題であることを提示するのだ。そこにアモス・ギタイの優れた今日性がある。

ギタイは当初建築家を目指していたが、73年の第四次中東戦争へ召集されたこと、テレビ局用のルポルタージュでイスラエル・パレスチナ問題を取り上げた作品が放送禁止になったこと等が原因で映画作家への道を選択する。82年『フィールド・ダイアリー』が当局の非難を浴びたことから、自発的にパリに亡命する。ヨーロッパの映画・演劇人と交流を重ねながら、イスラエルやパレスチナの問題を問い続ける。93年、イスラエルを取りまく状況の変化に伴い帰国。劇映画、ドキュメンタリーとジャンルを越えた旺盛な創作活動を展開している。99年には東京国際映画祭を始め世界各地の映画祭がギタイの特集を開催しており、今世界中が注目する映画監督の一人である。

ギタイはその両方のタイプを両親にしていたことになり、彼の作品にも影響を及ぼしている。

アモス・ギタイは1950年、イスラエル北部の都市ハイファに生まれる。父は1933年にポーランドからパレスチナに渡り、建国後のイスラエルで建築家として活躍している。母の両親はロシアから渡ってきた社会主義者であった。イスラエル建国を担ったユダヤ人は、ユートピアを求めて来た人々と、避難場所として渡ってきた人々の二つのタイプがいるが、ギタイはその両方のタイプを両親にしていたことになり、彼の作品にも影響を及ぼしている。



亡命(エクシール)する映画作家 アモス・ギタイ

フランスの著名な映画脚本家であるフィリップ・ガレルは『リベラシオン』紙に、「アモス・ギタイは詩人である」という記事を発表したことがありました。また、『ゴレム・さまよえる魂』にも出演している巨匠ベルナルド・ベルトリッチが「コクトーが『カメラを詩人にもたせたら、それは素晴らしい、そして危険な武器になる』と言ったのは、まさにギタイのことではなかったか?」と述べたこともあります。福岡のみなさんに豊かで詩情溢れるアモス・ギタイの独特の言語を、特別上映会という形でこのようにご紹介できる機会があることを、心から嬉しく思っております。映像という国際言語によって私たちは、言語の障壁を克服し、世界中の人々の相互理解も可能にします。この芸術媒体を通して多くの観客に近づける点が、極めて重要な点といえるでしょう。映画は誰もが理解できる芸術媒体であり、一国の社会、政治問題だけではなく、全世界の人間社会が共有する特質を反映します。イスラエルの映画を紹介することで、イスラエル社会に対するより深い理解を得るために、福岡市総合図書館と協力するのはこれが2度目になります。みなさまにも是非、2000年3月17日から東京で開催予定の『第4回イスラエル映画祭』にもお運びいただければと思います。この映画祭ではギタイの最新作『カドッシュ』を含む、将来有望なイスラエルの才能溢れる監督たちが披露される予定です。今回のアモス・ギタイの特集上映会の実現にあたって、福岡市総合図書館、アテネフランセ文化センターなど、お力添えいただいた各方面の皆様にご心から感謝いたします。

ズィヴ・ネヴォ・クルマン
イスラエル大使館
文化担当二等書記官

Philippe Garrel, a well known French film author once opened an article about Amos Gitai in Liberation stating that "Amos is a poet". Bernardo Bertolucci, acting in "Golem-L'Esprit de l'exil" elaborated: "Was Cocteau thinking of Amos Gitai when he said that a camera can be a wonderful and dangerous weapon in the hands of a poet?"

It is indeed our great pleasure to introduce to the people of Fukuoka a special film program that encompasses the rich and poetic language of Amos Gitai. We believe that this language is a universal one that can bring people from different parts of the world closer to each other. There is great importance in the possibility to reach a large audience with an artistic medium that is understandable to us all and is reflecting the social and political agenda of a country as well as the common traits global human society shares.

This is the second time for us to cooperate with the Fukuoka City Public Library in introducing Israeli cinema and providing an inner look into Israeli society. We also hope you will join us in our forthcoming fourth Israeli film festival to take place in Tokyo on March 17-19, 2000, with the screening of Gitai's latest film "Kadosh" and other promising Israeli talents.

Many thanks to all who helped realize this special Amos Gitai Screening: The Fukuoka City Public Library and the Athenée Francais Culture Center.

Ziv Nevo Kulman
Second Secretary for
Cultural Affairs
EMBASSY OF ISRAEL

19日(水) 14:00 22日(土) 11:00

フィールド・ダイアリー

Field Diary



1982年/16ミリ/カラー
ドキュメンタリー
83分
監督：アモス・ギタイ

日本語字幕付き

1982年、イスラエル軍がPLO掃討を目的に侵攻したレバノン南部を中心に、ガザ地区、ヨルダン川西岸等でエスカレートしていく暴力の実態とその背景を探ったドキュメンタリー。軍当局者に何度も撮影を邪魔されながらも、ギタイは執拗に対象に迫っていく。世界各国の映画祭で上映され、一躍ギタイの名前を高めたが、イスラエルでは上映禁止とされる。この事をきっかけにギタイは、93年までパリで自発的な亡命生活をおくることになる。

21日(金) 14:00 27日(木) 19:00

メモランダム

Devarim



1995年/35ミリ/カラー
110分
監督：アモス・ギタイ
出演：アツシィ・ダヤン

日本語字幕付き

93年に母国に帰ったギタイが初めて製作した劇映画。この映画に登場する男達は、イスラエル建国を担った第一世代とは対照的に、非宗教的な俗世間をさすっている。登場人物達の断片的な日記とも言えるこの映画において、監督はかつての伝説的なイスラエルのイメージを失い、迷宮をさまよう現代のイスラエルを描き出そうとしているのだ。名カメラマン、レナート・ベルタの自然光を活かした撮影がみごとな作品である。

19日(水) 19:00 22日(土) 15:00 28日(金) 14:00

ベルリン・エルサレム

Berlin Jerusalem



1989年/35ミリ/カラー
89分
監督：アモス・ギタイ
出演：リザ・クロイツァー

日本語字幕付き

パレスチナにおいて労働運動の創設者となったマニア・ヴィルボシェヴィチ・ショハットと、ベルリンの表現主義詩人でナチスの台頭によりパレスチナに逃れたエルゼ・ラスカー＝シュラー、実在の二人の女性を主人公にイスラエル建国の夢と挫折を描いた作品。それぞれの動機で『約束の地』を探し求める二人の女性の人生が、陰影の濃い表現主義的映像により描かれる。ヴェネチア映画祭批評家賞。

20日(木) 14:00 23日(日) 11:00 26日(水) 19:00

ゴレム、さまよえる魂

Golem: L'Esprit de l'Exil



1991年/35ミリ/カラー
105分
監督：アモス・ギタイ
出演：ハンナ・シグラ

日本語字幕付き

旧約聖書『ルツ記』の異郷の地を流浪する一家の物語を、現代のパリを舞台にして描いた作品。セリフの多くは旧約聖書からとられており、ゴレムは流浪の民を守る存在として描かれる。監督が自らの作品のテーマは「亡命」であると語っており、本作と『ベルリン・エルサレム』『エステル』はディアスポラ(民族離散)三部作と言われる。サミュエル・フラ、ベルナルド・ベルトリッチといった監督の友人達が出演しているのも注目である。

21日(金) 19:00 26日(水) 14:00 28日(金) 19:00

エルサレムの家

A House in Jerusalem



1989年/ビデオ/カラー
ドキュメンタリー
89分
監督：アモス・ギタイ

日本語字幕付き

ギタイは80年に「家」というドキュメンタリーを製作しているが、本作は約20年ぶりに東エルサレムにあるその家を訪れ、そこに暮らす人々へのインタビューを通して、イスラエルの現在を描き出したものである。「家」は本作の中に引用されているが、一つの家の歴史がイスラエルとアラブの葛藤のメタファーになっている作品である。この作品では「家」から「通り」へと視点を広げ、複数の民族、言語、文化が入り交じるイスラエルの現実を切り取っている。

20日(木) 19:00 23日(日) 15:00 27日(木) 14:00

ヨムヨム

Day After Day



1998年/35ミリ/カラー
105分
監督：アモス・ギタイ
出演：モシェ・イヴギ

日本語字幕付き

主人公モシェはパン屋を営む40才の男で、母親はユダヤ人、父親はアラブ人だった。妻との関係が冷え切っているモシェは、しばしば愛人の所へ通っていた。ところがモシェの幼なじみの親友ジュールも、モシェの愛人と密会を重ねていた。ユダヤ人とアラブ人が共存することから生じる問題を盛り込み、中年男の危機を断片的で詩的な映像により表現している。主演のモシェ・イヴギはイスラエルきっての人気俳優である。98年エルサレム映画祭グランプリを受賞。

原

節子

映画特集

会期：五日(水)～十六日(日)

※休館日・休映日を除く

観覧料：五〇〇円(大人)

四〇〇円(大学生・高校生)

三〇〇円(中学生・小学生)

※定員制、各回入替制。

※チケットはすべて当日券です。前売り券はありません。

※福岡市在住の障害者の方は無料。福岡市在住の六十五才以上の方は半額。(手帳の提示が必要です。)

永遠の処女・原節子

1920年生まれ。原節子は、映画監督・熊谷久虎の義妹にあたり、彼の強いすすめと尽力により、1935年に日活の女優となった。

目が大きく、彫りの深い彼女は古風な役柄よりも進歩的な役が似合う女優だろう。しかし、同時にその物腰、雰囲気には物静かさや気品があり、私生活でもゴシップやスキャンダルに巻き込まれることがほとんどなかった。戦前、山岳映画の第一人者である独監督のアーノルド・ファンクに認められ、日独共同作品1937年の「新しき土」のヒロイン役に抜擢された。

ことで、彼女は大きく飛躍することになるが、ファンクにとっては日本的な魅力

を持った女優であつたようだ。しかし当時の日本では特に大きな瞳と彫りの深い顔立ち

から都会的な作品や洋風な作品が多い。戦前では伊丹万作の「巨人伝」、山本薩夫の「田園

交響楽」、戦後では黒澤明の「白痴」などの外国文学の翻案作品の他、「青い山脈」の島崎先

生役などである。戦後、黒澤明の「わが青春に悔なし」以降、彼女の人気は一段と高まり、一

気には大女優となっていくが、洋風な容姿と日本的な落ち着き、知的な物腰など、急速な民主化、

欧米化を目指す日本の一つの理想的女性像であつたのではないだろうか。

しかし、現在の原節子像を支えるのは、なんとといっても一連の小津作品であろう。「晩春」以降の

小津作品において原節子は、近代化の中で解体していく家庭の間に流れる愛情の象徴であり、孤独な

父親の理解者であつた。

1962年、「忠臣蔵／花の巻・雪の巻」を最後に事実上、引退。その後、マスコミに一切姿を現さず、「永遠

の処女」といわれたその名声は伝説にまで高まった。

1936年／16ミリ／モノクロ
82分／日活＝太秦発声
監督／山中貞雄
出演／河原崎長十郎 原節子

デビュー2年目、有望な新人女優として注目を集め始めたばかりの原節子が、河内山宗俊、金子市之丞のマドンナ役として初々しい演技を見せている。若くして戦死した天才監督・山中貞雄の現存する数少ない作品の一つ。

河内山宗俊



お嬢さん乾杯



晩春



白痴



めし



麦秋



東京物語



山の音



1949年／16ミリ／モノクロ
90分／松竹
監督／木下恵介
出演／原節子 佐野周二

木下恵介初の本格喜劇映画であり、当時はもはや、大女優となっていた原節子もこれが最初の本木作品である。ストーリーは、没落華族の令嬢が父を救うため、成り上がり青年と婚約するが愛のない結婚に悩む姿をユーモラスに描く。

1949年／35ミリ／モノクロ
108分／松竹
監督／小津安二郎
出演／笠智衆 原節子

原節子が最初に出演した小津作品であり、その後の小津のスタイルを決定づけた名作。父一人、娘一人の親子が娘の結婚話で互いの身を案じる様子を描いた名作。この作品以降、小津映画になくはならぬ女優として、ほとんどの作品に出演している。

1951年／35ミリ／モノクロ
166分／松竹
監督／黒澤明
出演／三船敏郎 原節子

黒澤が敬愛するドフトエスキーの原作を映画化。当初、4時間を超える長さに松竹上層部が再編集を命じ、黒澤が激怒したという逸話を残す。二度目の黒澤映画出演の原節子がヒロイン・妙子役を熱演し、小津、成瀬の作品とは異なった一面をみせている。

1951年／35ミリ／モノクロ
97分／東宝
監督／成瀬巳喜男
出演／原節子 上原謙

戦後の成瀬巳喜男がその真価を発揮した最初の作品。倦怠期を迎えたサラリーマン夫婦の危機を、きめ細やかな描写の中に淡々と描き、以後の成瀬作品の方向性を決定づけた。原節子が物腰や微妙な表情の変化などで、生活に疲れた妻の姿を的確に演じている。

1951年／35ミリ／モノクロ
125分／松竹
監督／小津安二郎
出演／笠智衆 原節子

小津の作品中、「晩春」「東京物語」と並ぶ名作。28歳になる紀子は両親や兄夫婦と同居している。家族は彼女の縁談についていろいろ心配するが、本人はなかなかその気にならない。紀子役の原節子を初め、小津組の常連の息のあった演技も秀逸な作品。

1953年／35ミリ／モノクロ
136分／松竹
監督／小津安二郎
出演／笠智衆 原節子

あまりにも有名な小津安二郎の代表作であり、日本映画を代表する傑作。東京で独り立ちした子供達を訪ねた老夫婦だが、家族を持ち生活に追われる子供たちは、彼等を邪険に扱う。原節子は血のつながらぬ老夫婦に唯一親身になる亡き息子の嫁を演じている。

1954年／35ミリ／モノクロ
95分／東宝
監督／成瀬巳喜男
出演／山村聡 原節子

川端文学の映画化であり、成瀬作品の中でも異色な作品。夫が愛人を作って家庭を顧みないのを知りながら、夫の両親にかいがいしく尽くす嫁を原節子が演じ、清純さの中に醸し出される美しさとエロティズムを見事に演じている。



アジアのフィルム事情

私達は開館以来「アジアのフィルムセンター」をめざし、広くアジア映像文化の振興に努めてきました。日常的には、アジアや日本の名作映画フィルムを貴重な文化財として収集し、専用収蔵庫の適温適湿(5℃・45%)で永久的に保存する一方、これらをシネラにおいて計画的に公開上映をしています。特に世界に例のないアジア各国に及ぶ作品の収集は、内外の関係者から高い評価をいただいています。そこで、今回は仕事を通じて触れた、アジアのフィルム事情等を紹介します。

私達はアジア映画の収集にあたり、アジアフォーカス福岡映画祭の上映作品収集と、毎年、国を決め、その国の映画史を語る代表作等を収集するという2つの方法をとっています。特に国別収集には、商業的な収集ルートがほとんどなく、直接、現地に行つての権利交渉となります。この過程や、日常の各国関係者との交流等の中で再認識していることは、アジアのフィルム保存環境が想像以上に厳しいことです。

今、世界の映画大国といわれ年間800本の劇映画が作られているインドでさえ、1964年に建てられた国立フィルムアーカイブ等のもに残っている作品は4,000本程度で、今迄製作された映画の10%程度にすぎません。高温多湿の気象条件と、製作本数の多さが保存を難しくしたといえます。お隣の韓国でも事情は同様です。1919年から韓国の映画史が始まりますが、今残っているのは約2,700作品(約57%)にすぎず、特に戦争の影響で45年以前の作品は全く無く、朝鮮戦争の間のものも10%程度しか残っていないそうです。他のアジア

の国々においても、映画製作が立派になされているものの、フィルム保存の面では共通して多くの課題をかかえています。関係者からは「当分は保存面までは対応が難しく、福岡市の取り組みは本当に有り難い」との声も多くありました。

映画は誕生して100余年ですが、当初から「見せ物」的な娯楽として成長しました。最盛期に次々と作品が作られ、興行用に更にフィルムが焼き増しされ、上映が終わると消耗品として処分されたり、製作者の倉庫にそのまま積まれていたのが実態のようです。また、以前のフィルムは可燃性で燃えやすく危険物として扱われたことで保存が難しかったこともあります。

アジアの一部の国では、フィルムの原料から銀を取ろうとして、焼いたり溶かししたりしたこともあったといえます。韓国の映画人からも、「韓国では昔ある時期、藁帽子をかぶっていたが、その帽子のリボンがだいたいフィルムだった」という笑えないエピソードを聞きましたが、実は、以前はどこの国でもこれに似た状態でした。文化を守る視点で、厳格な設備のものとフィルム保存は、近年の動きなのです。

先に韓国巨匠のイム・グオンテック監督が来館された時、既に韓国内には残っていない自分の作品に出会われ、大変喜ばれて「大切にお世話を頼みます」と言われたことがあります。

2000年を迎え、21世紀への結節点となるこの年、心新たに、皆様のご理解・ご協力を得て、次世紀、次々世紀へ「アジアの心」をつなぐ努力をしたいと思います。

映像資料課 木元章則

お知らせ

INFORMATION

各団体の自主上映

1月29日(土)11:00 15:00
「秦・始皇帝」(監督:田中重雄)
観覧料/前売り1,500円 当日1,800円

1月30日(日)11:00 14:45
増村保造監督特集
「痴人の愛」(主演:安田道代)
「セックスチェック・第二の性」
観覧料/前売り1,500円 当日1,800円
主催/W.L.C福岡
(Tel 092-741-7687 瓜生史郎)

※自主上映の詳細については、
直接主催者にお問い合わせ下さい。

シネラNEWS送付のご案内

シネラで上映する作品の紹介や上映スケジュール、図書館で開催される各種イベント等の情報を掲載した「シネラNEWS」を毎月お届けします。定期購読を希望される方は平成12年2月号より平成12年3月号迄の郵便切手(90円×2枚)を同封の上、下記宛先までお申し込み下さい。

宛先:〒814-0001福岡市早良区百道浜3-7-1

福岡市総合図書館 映像資料課

ビデオ編集技術研修室のご案内

ビデオ研修室では、家庭で撮影された8ミリビデオや各行事の記録ビデオの編集などに利用できます。(使用料1時間500円、連続使用3時間迄、デジタルビデオの編集は不可)
※詳しくは福岡市総合図書館映像資料課まで

映像ホール・シネラ 今後の予定

2月・3月の上映予定は次のとおりです。 ※変更の場合もあります。あらかじめご了承ください。

2月2~13日(休館・休映日を除く)

イラン映画の巨匠たち

「牛」「ハムーン」「サラ」「また逢えるなら」「トラベラーズ」
「サイクリスト」「ワンス・アポン・ア・タイム」シネマ

2月16~20日

家族の肖像

「日の沈むところ」(スリランカ)「春の河 東に流る」(中国)「赤い柿」(台湾)「ロマンス・パヴァ」(韓国)「アマール・アクドル・アントニー」(インド)「父子情」(香港)

3月1~5日

ロード・ムービー 旅する映画

「森浦への道」「旅人は休まない」(韓国)「国道封閉」(台湾)「メルセデス わが愛」(トルコ)

3月8~12日

作家との対話/ダイレクト・アクション・シネマの系譜

ドキュメンタリーと劇映画の境界線上の映画を特集。
現在、上映企画中です。

3月15~25日(休館・休映日を除く)

田中絹代特集

「マダムと女房」「陸軍」「西鶴一代女」「雨月物語」「おとうと」「サンダカン八番娼館」「ある映画監督の生涯・溝口健二の記録」

3月26日

サイレント映画(活弁つき)「伊豆の踊子」

1月

1

土

4

火

5

水

6

木

7

金

8

土

9

日

10

月

11

火

12

水

13

木

14

金

15

土

16

日

17

月

18

火

19

水

20

木

21

金

22

土

23

日

24

月

25

火

26

水

27

木

28

金

29

土

30

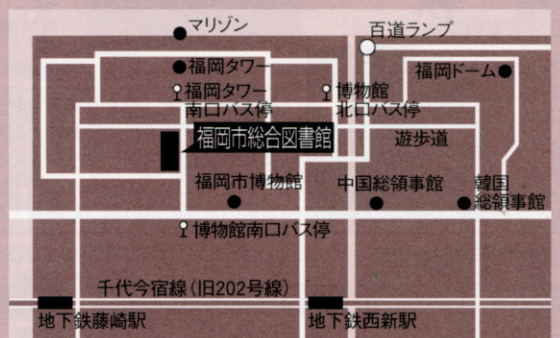
日

31

月

年末・年始の休館日

原節子映画特集	14:00	めし	19:00	お嬢さん乾杯
	14:00	晩春	19:00	河内山宗俊
	14:00	白痴	19:00	麦秋
	11:00	河内山宗俊	15:00	お嬢さん乾杯
	11:00	晩春	15:00	白痴
	11:00	東京物語	15:00	山の音
	休館日			
	休映日			
	14:00	東京物語	19:00	めし
	14:00	麦秋	19:00	晩春
アモス・ギタイ	11:00	麦秋	15:00	めし
	11:00	山の音	15:00	東京物語
	休館日			
	休映日			
	14:00	フィールド・ダイアリー	19:00	ベルリン・エルサレム
	14:00	ゴレム、さまよえる魂	19:00	ヨムヨム
	14:00	メモランダム	19:00	エルサレムの家
	11:00	フィールド・ダイアリー	15:00	ベルリン・エルサレム
	11:00	ゴレム、さまよえる魂	15:00	ヨムヨム
	休館日			
映像のエクシール	休映日			
	14:00	エルサレムの家	19:00	ゴレム、さまよえる魂
	14:00	ヨムヨム	19:00	メモランダム
	14:00	ベルリン・エルサレム	19:00	エルサレムの家
	自主上映「秦・始皇帝」			
	自主上映「痴人の愛」「セックスチェック・第二の性」			
	休館日			
	休映日			
	14:00	エルサレムの家	19:00	ゴレム、さまよえる魂
	14:00	ヨムヨム	19:00	メモランダム



交通アクセス: 当館の駐車場スペースに限りがありますので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。

地下鉄: 西新駅または藤崎駅から徒歩15分
西鉄バス: 天神~都市高速経由~福岡タワー南口

(所要時間 昼間で約20分)

博多駅~都市高速経由~福岡タワー南口

(所要時間 昼間で約25分)

福岡タワー南口バス停から徒歩3分

いずれも、昼間は10~15分間隔で運行されていますので大変便利です。

お近くのバス停からのご利用につきましては、西日本鉄道テレホンセンター(電話 733-3333)に直接お問い合わせください。

編集雑記

今年は西暦2000年、世の中が世紀末に向かってひた走っている。社会情勢の不安や景気の不振はいつまで続くのかとついつい考えてしまう。そんなときにはシネラで映画をご覧いただき一時の清涼剤として気分を一新していただければ幸いに思う。1月は原節子の特集だ。製作当時の社会状況と現在の状況が酷似していると思うが果たして読者の方はどうだろうか。(但し映画の中の人々が生き生きしているのが非常に印象的だ。)(H.I.)

Fukuoka City Public Library Movie Hall Ciné-là

福岡市総合図書館映像ホール・シネラ

〒814-0001 福岡市早良区百道浜3丁目7番1号

福岡市総合図書館(代表)092(852)0600 映像資料課092(852)0608 Fax.092(852)0609

福岡市総合図書館ホームページアドレス <http://toshokan.city.fukuoka.jp/>